

坂本龍馬に寄す（武市半平太）

肝胆 元より 雄大にして

奇機 自ら 湧出す

飛潜 誰か 識る 有らん

偏えに 龍名に 恥じず

坂本龍馬 土佐郷士に生まれ、脱藩した後は志士として活動し、貿易会社と政治組織を兼ねた亀山社中（後の海援隊）を結成した。薩長同盟の幹旋、大政奉還の成立に尽力するなど倒幕および明治維新に影響を与えた。大政奉還成立の一ヶ月後に近江屋事件で暗殺された。

解説 坂本龍馬のことを詠った詩。

語釈 ※肝胆 心の中心。真心。 ※雄大 規模が大きく堂々として
いる。 ※奇機 想像も付かない事が起こる。不思議な事が起こる。
※湧出 地中から湧き起こること。 ※飛潜 潜む。 ※偏に 偏ったこと。
もっぱら。 ※龍名 龍馬の名。

通釈 龍馬の心の中はいつも雄大であって、どんなに想像が付かない事が起こっても、自ら乗り越えてきた。たとえば、龍馬が何らかの事情で潜むことがあり、それを誰かが知ったとしても、それは龍馬の名に恥じることはない。